

ダム等管理フォローアップ
意見を受けての報告書修正対応表

【天ヶ瀬ダム】

平成 23 年 3 月

近畿地方整備局
淀川ダム統合管理事務所

【天ヶ瀬ダム】

1. 事業の概要

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
1.1 流域の概要 本編 p1-7	・発電実績や回転率を見ると、昭和 40 年代に比べてダムへの流入量が経年的に減少しているように見えるが、これは、琵琶湖からの流入量が長期的に変化してきていると見て良いか。また、その原因として積雪の影響が考えられるか。	・天ヶ瀬ダム地点の年平均気温と年降水量の経年的なトレンドを本編 p1-7 図 1.1-7 に示している。積雪量の減少が影響しているかどうかは不明であるが、年平均気温が上昇傾向、年降水量が減少傾向にあることについては本編 p1-7 記述している。	

2. 洪水調節

特に無し

3. 利水

特に無し

4. 堆砂

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
4.5 堆砂傾向及び堆砂対策の評価 本編 p4-21	・ダム下流の課題として、堆砂では粗粒化と河床低下、生物ではカワヒバリガイが増加するという問題が示されているが、これらはリンクしていると考えられる。砂礫が動かないことで、カワヒバリガイが成長しやすい環境になり、これに加えて、ダム湖由来のプランクトンが補給されて餌環境が豊富になっている。こういう現状を改善するという流れの中で、土砂の連続性の回復という方向性があるのではないかと思われる。したがって、記載場所が2つに分かれているが、できればそれを双方に書くなりドッキングするというような工夫をしていただきたい。	・本編第6章「生物」第4節「生物の生息・生息状況の変化の検証」においても、p6-179～180に下流河川の粗粒化の記述をしている。	
6.4 生物の生息・生息状況の変化の検証 本編 p6-186			

5. 水質

特に無し

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
<p>6.3 ダム湖周辺及びその周辺の環境の把握 本編 p6-89、</p> <p>6.4 生物の生息・生息状況の変化の検証 本編 p6-204</p>	<p>・平成 21 年度の植物の外来種数が P6-89 で 178 種となっているが集計が間違っている。120 種位であり、比率としては少し下がっているように見えるが、むしろ在来種数が少し減ってきているように思う。在来種リストを本編に掲載していただきたいし、なぜ減少しているのかを教えてください。</p>	<p>【委員会の指摘により訂正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本編 p6-89 表 6.3-12(3)の平成 21-22 年の植物外来種確認種数の合計を 178 種から 119 種に訂正。 ・底生生物、動植物プランクトン、付着生物、植物、陸上昆虫類等確認種リストを第 6 章の最終頁に追加。 <p>【委員会の意見により修正】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本編 p6-204 に、調査時期や調査地点の違いによる影響もあると考えられる旨を記述。 	<p>・植物確認種数の減少は自然環境の変化を反映している可能性もあるため、今後も植生変動に留意し継続的に把握していく。</p>
<p>6.3 ダム湖周辺及びその周辺の環境の把握 本編 p6-112</p> <p>6.4 生物の生息・生息状況の変化の検証 本編 p6-146 ~ 147</p>	<p>・天ヶ瀬ダムの周辺というのは、植生がすばらしく良く、二次林であるが、リストにもあるように、植物の重要種が非常に多い。裸地のところを緑化するのも悪くはないが、ダム湖周辺の植生を生かすような景観づくりや、外来種管理として外来種駆除の方にむしろエネルギーを使う方がダム管理としてはいいのではないか。</p>	<p>・湖岸以外のダム湖周辺はほとんどが民地であり、ダム管理者が景観づくりで対応できることは限られている。</p> <p>・湖岸緑化については、本編 p6-112 に、裸地景観の緩和を目的としていることを記述している。</p>	<p>・裸地部における植物外来種の駆除については、予算やダム管理者としてどこまでできるのかということも含め、今後の検討課題とする。</p>
<p>6.4 生物の生息・生息状況の変化の検証 本編 p6-150 ~ 151</p>	<p>・平成 18 年にカワウが非常に増えているが、カワウが多くなると水質にも影響するし、森林を広域的に枯らしてしまうことにも繋がるため注意する必要がある。ダム湖に影響するほど営業しているのか。対策はしていないのか。</p>	<p>・ダム湖にはカワウの糞で白くなった木も幾らか見られるが、ダム湖の水質に影響するというほどまでには至っていない。</p>	<p>・カワウの駆除については、自治体等関係機関との連携を含め今後の検討課題とする。</p>

7. 水源地域動態

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
<p>7.4 ダムと地域の関わりに関する評価 本編 p7-19 ~ 21</p>	<p>・天ヶ瀬ダムは投身自殺が多く、そのために堤頂通路の改修もしたとのことだが、ダム自体のイメージを良くするためにもう少し他にできることはないか。例えば、堤頂通路にプランターで花を飾ったり、それを地元の方や子供たちなどが世話をするなど、イメージがよくなるかと思う。</p>	<p>・自殺防止対策については心理学等専門家の意見も踏まえ、夜間閉鎖、ダムサイトのプランターや堤頂通路の説明パネル設置等による来訪者の賑わいの創出等様々な取り組みをしている。</p>	<p>・自殺防止対策については、今後も引き続き工夫していく。</p>